

各位

上場会社名	プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
代表者	代表取締役社長 田島 秀二
(コード番号)	7707)
問合せ先責任者	常務取締役業務本部長 秋本 淳
(TEL)	047-303-4800)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成25年11月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成26年6月期通期連結業績予想数値の修正(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,360	△250	△225	1,200	65.75
今回修正予想(B)	3,900	△550	△480	950	52.05
増減額(B-A)	△460	△300	△255	△250	
増減率(%)	△10.6	—	—	△20.8	
(ご参考)前期実績 (平成25年6月期)	4,029	△126	△70	1,014	55.58

(注)1株当たり当期純利益は、平成26年1月1日付で、1株につき200株の割合をもって株式分割を実施した影響を考慮しております。

修正の理由

1. 売上高の修正理由

DNA自動抽出装置を中心としたラボ(研究室)自動化装置および試薬・消耗品などの主力事業の既存製品に関しては、OEM先別に好不調はあるものの、全体としては当初予想の範囲内にて推移しております。一方で、当連結会計年度を通じた新製品開発の受注案件として、(1)アボットグループ向けの臨床診断用の検体前処理装置、(2)エリテックグループ向けの全自動遺伝子診断装置「geneLEAD(ジーンリード)」の2つの大きなプロジェクトを予定通りに進めることに注力してまいりました。

両案件とも開発自体は順調に進めておりますが、刻々と変化する顧客要求事項への対応や臨床診断装置としての規格基準への対応など、通常の製品開発に比べても相当に負荷の高いプロジェクトとなっております。どちらの顧客も今秋での製品化を目論んでおり、その日程自体は伸びておりませんが、当連結会計年度中に納品できると考えていたプロトタイプ機の出荷台数の減少や、製品機としての初期ロット出荷などが来期へとずれ込む見通しとなりました。これに伴い、試薬・消耗品といった付随する売上見通しも下方修正となりました。臨床診断分野に関しては、こういった開発案件に加えて既存製品の伸びにも期待しましたが、その未達分も含め、前回予想比△460百万円の下方修正となる見通しとなりました。

2. 利益の修正理由

上記の売上予想の下方修正に伴い、売上総利益が1,350百万円(前回予想比△160百万円)に減少する見通しとなりました。費用面においては、新規製品の開発及び事業化推進のため、人員増加、研究開発費及び特許関連費用の増加を招いており、特に、研究開発費に関しては過去最高額の600百万円を計上する予定で、販売費及び一般管理費は1,900百万円(前回予想比140百万円増)の見通しとなりました。その結果、営業損失△550百万円(前回予想比△300百万円)となる見通しであります。

その他、第3四半期連結累計期間に発生している営業外損益や特別損益などを考慮し、経常利益及び当期純利益の予想を修正いたしました。

なお、第4四半期(4～6月)における為替レートについては、近時の動向を参考に、1ドル=102円、1ユーロ=140円にて算出しております。

3. 今後の見通しについて

昨年、事業フィールドは研究開発分野から臨床診断分野へ移行し、製品構成は装置中心から試薬・消耗品ビジネスへの転換を掲げ、3カ年の中期事業計画を策定いたしました。当連結会計年度は、その中期計画の初年度でありました。

残念ながら、初年度の売上・利益計画などの数値目標は達成が困難な状況となりましたが、会社の運営方針やビジネスの方向性に変化はなく、実際の事業内容、研究開発内容など、中期計画に沿ったものとなっております。現在、開発の最終局面を迎えているアボットグループやエリテックグループ向けの製品開発を中心として、それらが製品化された際には、当社の中期計画の実証が始まるものと考えております。エリテックグループ向けの全自動遺伝子診断装置「geneLEAD」に

は、当社のDNA抽出試薬が搭載される予定であり、その製造のため、秋田の大館工場においては、稼働準備が着々と進んでおります。

当社グループにとって、当連結会計年度は、業績の飛躍に向けた正念場であると考えており、有価証券売却益で得た潤沢な手元資金を活用し、来期につなげたいと考えております。

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上